

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興関連需要や経済政策による景気回復の動きが見られたものの、雇用環境は依然厳しく世界的な景気減速や円高の常態化などの景気下振れリスクが内在する先行き不透明な状態で推移しました。

調剤薬局業界及び介護業界におきましては、平成24年4月1日に調剤報酬改定・薬価改定・介護報酬改定が同時に実施され、薬価は6.25%の引下げ、介護報酬は1.2%の引上げとなりました。

このような環境下、当社グループは調剤薬局事業及びヘルスケア事業におけるM&Aの実施や投資子会社の設立により、グループ子会社10社体制にて事業規模拡大に取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、主力とする調剤薬局事業が薬価改定等の影響を受けましたが、ヘルスケア事業及び医薬品卸事業の業績が寄与し、売上高は10,183百万円(前年同期比5.8%増)となりました。一方、営業利益は576百万円(同3.6%減)、経常利益は546百万円(同4.3%減)となりました。四半期純利益につきましては、有価証券売却益を特別利益に計上したため558百万円(同46.4%増)の増益となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(調剤薬局事業)

調剤薬局事業におきましては、薬価引下げ等の影響を受けましたが、処方箋の長期化により処方箋単価が前年を上回ったため既存店の売上高は微増となりました。新規出店につきましては、6月にフラワー薬局栢植店(三重県)、7月にフラワー薬局くじま店(大阪府)を開局しました。加えて、8月に子会社である株式会社メディケアサポートが愛知県の2店舗を取得し、当社グループの店舗数は82店舗となりました。その結果、売上高9,172百万円(前年同期比3.8%増)、営業利益682百万円(同10.2%減)となりました。

(ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業におきましては、介護付有料老人ホーム等6施設の入居率が増加したこと及び今年3月に取得した訪問介護事業会社の業績が寄与したことにより、売上高は577百万円(前年同期比37.9%増)、営業利益は82百万円(同318.1%増)となりました。

(医薬品卸事業)

医薬品卸事業におきましては、厚生労働省によるジェネリック医薬品使用促進策のもと、積極的な営業を展開したことにより、売上高は396百万円(前年同期比20.3%増)、営業利益は42百万円(同176.6%増)となりました。(内部売上高を含む売上高は582百万円となり前年同期比23.6%増)

(不動産事業)

不動産事業におきましては、不動産の賃貸業務により安定した収益を確保しております。不動産事業の売上高は37百万円(前年同期比1.8%減)、営業利益は20百万円(同5.1%増)となりました。

なお、セグメント間の内部売上高として187百万円を消去するとともに、全社における共通経費として251百万円を計上しております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は15,326百万円となり、前連結会計年度末と比較して516百万円増加いたしました。

流動資産の合計は7,134百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,783百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加1,538百万円によるものです。

固定資産の合計は8,192百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,266百万円減少いたしました。これは主に、投資有価証券の減少1,622百万円によるものです。

負債合計は10,522百万円となり、前連結会計年度末と比較して18百万円減少いたしました。これは主に、買掛金の増加186百万円、長期借入金(1年内返済予定を含む)の増加143百万円、短期借入金の減少600百万円によるものです。

純資産合計は4,804百万円となり、前連結会計年度末と比較して535百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益558百万円によるものです。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同現物(以下、「資金」という。)は3,724百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,538百万円増加いたしました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、378百万円(前年同期比117百万円の減少)となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益997百万円、仕入債務の増加185百万円、減価償却費155百万円があったものの、投資有価証券売却益451百万円、売上債権の増加101百万円、法人税等の支払343百万円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、1,715百万円(前年同期は518百万円の支出)となりました。これは、主に投資有価証券の売却による収入2,747百万円があったものの、投資有価証券の取得による支出557百万円、有形固定資産の取得による支出361百万円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、555百万円(前年同期は272百万円の収入)となりました。これは、主に長期借入金の純増加143百万円、短期借入金の返済による支出600百万円があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年2月期の業績予想につきましては、平成24年4月5日公表の数値から変更はありません。

なお、今後の経営環境等の変化により見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

第1四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第9号 平成22年6月30日)を適用しております。

当社は、平成24年6月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

これらの会計基準等を適用しなかった場合の、前第2四半期連結累計期間の1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は以下のとおりであります。

1株当たり四半期純利益金額	19,977円06銭
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	—